

令和 2 年 3 月 吉日
駒の学び舎
世田谷区立駒沢中学校
校 長 梶田 和明

令和元年度の改善方策に基づく改善結果について

1 「保護者・地域のアンケート回収率を高める努力の継続」について

- (1) アンケート配布から回収までの期間を長く設定したり、学級担任から提出を促す働きかけを行ったりしていたが、保護者からの回収率は66.7%(前年比-8.9)となり、2年続けて大きく減少している。しかし、1・2年生保護者からの回収率は70%を超えているので、来年度以降もこれまで続けてきたアンケート周知の工夫を継続させていきたい。
- (2) 地域の方対象のアンケートは、配布対象者を増やした(+23)結果、回収率は減少したものの回収数を増やすことができた。今後も幅広く様々な立場の方々に学校を見ていただき、学校関係者評価に関わっていただきたいと考えている。

2 「生徒指導上の課題の克服」について

- (1) 保護者アンケート「本校は、子どもたちに問題となる行動が少ない」の肯定的評価が61.7%(前年比+15.9)と大きく上昇した。今年度、生徒にとっての行動指針であり教員にとっての指導指針となる「駒中Principle」を生徒総会を通じて確定させ、望ましい行動を増やそうとする予防開発的な生活指導を全校体制で推進した成果が現れてきたものとする。今後とも、自ら正しく判断して行動できる生徒の育成をめざした指導の充実を図りたい。
- (2) 人間関係形成・社会形成能力やコミュニケーション能力を培うために、構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングの充実を図ることが課題である。

3 「学校教育の一層の理解と協力を得るための広報宣伝活動の充実」について

- (1) 学校だよりと学校運営委員会だよりを定期的に発行し、特に、地域社会への情報発信として、町会の回覧板に学校だより等を載せること継続させており、好評を得ている。
- (2) JRC部を中心とする地域活動へのボランティア生徒参加が定着し、町会等の地域活動関係者からの高評価につながった。
- (3) アンケート配布時に学校の教育活動を紹介する補助資料を作成添付できなかったのが次年度への課題としたい。また、保護者会や学校公開、PTA運営委員会等の機会を活用して、保護者と学年教員が懇談する機会の充実を図りたい。